

ジェネリック医薬品

最近、「ジェネリック医薬品」

という言葉をよく耳にしませんか？

薬代が節約できるかもしれないので、病院や薬局で相談してみましよう。

まずは相談を！



新薬（先発医薬品）の特許期間満了後に、同じ有効成分で製造・販売される薬をジェネリック医薬品（後発医薬品）といいます。新薬に比べて価格が2割から8割も安く、また、大きさや味、おいの改善や保存性が向上するなど、より飲みやすく改良されているものもあります。

WHO（世界保健機関）でもジェネリック医薬品の使用を推奨している、すでに欧米では医薬品の約6割のシェアを占めている国もあるのに対し、日本での普及率はまだ2割にも達していません。そこで厚生労働省は、ジェネリック医薬品の品質検査を強化するなど、その利用促進に向け、積極的に取り組んでいます。2008年4月

の医療費改定では、処方せんの様式が変更され、より利用しやすくなりました。

さらに2009年度からは、ジェネリック医薬品をもっと利用してもらおうよう、健保組合もその促進に取り組んでいくことにしています。ジェネリック医薬品が普及すれば、家計にやさしく、健保組合の医療費支出を抑えることもでき、さらには国全体の医療費削減にもつながります。

現在は、すべての新薬に対してジェネリック医薬品があるわけではありませんが、需要が高まれば今後開発が進み、流通も確保されるなど、より利用しやすくなるでしょう。

まずは医師や薬剤師に、聞いてみましょう

ジェネリック医薬品の購入には、医師の処方せんが必要です。医師や薬剤師に、次のように相談してみましよう。



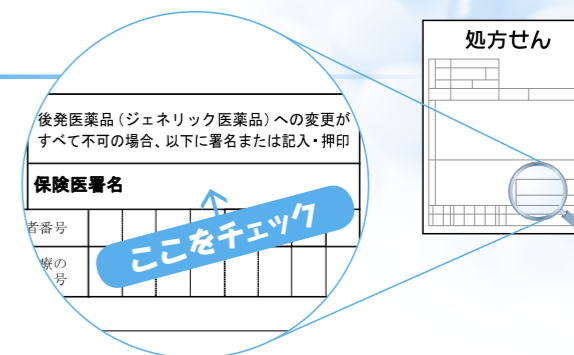
私もジェネリック医薬品を使えますか？

ジェネリック医薬品って、どのような薬なんですか？

同じような成分で、もっと安い薬があると聞いたのですが、試してみることができますか？

処方せんの医師の署名または押印をチェック

2008年4月から処方せんの様式が変わり、所定の欄に医師の署名や押印がない場合には、患者さんの意思で新薬からジェネリック医薬品に変更できるようになっています。署名等がないときは、薬剤師に相談してみましよう。



後発医薬品（ジェネリック医薬品）への変更がすべて不可の場合、以下に署名または記入・押印

保険医署名
 者番号
 薬の号
 ここをチェック

ご存知ですか？ ジェネリック医薬品 Q&A



Q どんな病気の薬でも、ジェネリック医薬品に替えてもらえるの？

A すべての病気の治療薬にジェネリック医薬品があるわけではありません。新薬の特許が継続中であれば製造・販売することはできず、また、医師の治療上の方針でジェネリック医薬品に替えられない場合もあります。その場合は、処方せんの「ジェネリック医薬品への変更不可」の欄に医師の署名等があります（本誌P8を参照）。

Q 価格が安いぶん、新薬よりも品質が劣るのでは？

A ジェネリック医薬品が安いのは、新薬の特許期間が切れた後に製造・販売されるためです。新薬よりも研究・開発費が少なく済むため、価格を安く設定できます。また、新薬と同様に「薬事法」や「品質再評価」という制度に基づく、厳しい品質基準をクリアしているため、ジェネリック医薬品は新薬とほぼ変わらない効果が期待できると考えられています。

Q ジェネリック医薬品に替えるとき、気をつけることはありますか？

A 治療をしている病気や薬によっては、ジェネリック医薬品に切り替えないほうがいい場合があります。また、何種類か薬を併せて飲んでいてジェネリック医薬品に切り替える場合には、切り替えることで効果に違いが出ないか、副作用が出ないかをみるために、1種類ずつ替えていくほうが安心です。どちらにしても、医師や薬剤師に相談しながら切り替えていきましょう。

ジェネリック医薬品に替えると、こんなにお得！

新薬からジェネリック医薬品に替えると、薬代の自己負担がかなり変わってきます。かぜ薬など短期間しか服用しない薬ではさほど変わりませんが、生活習慣病（脂質異常症や高血圧症、糖尿病など）などの慢性的な病気、長期間に薬の服薬が必要な人の場合は、自己負担額が大きく減額されます。

※新薬とジェネリック医薬品の値段 (2009年2月現在) (日本ジェネリック医薬品学会)

3割負担の場合		
新薬	ジェネリック医薬品	自己負担の差額
13,140円	5,480円	7,660円節減
■脂質異常症(高脂血症)の場合：代表的な薬を1日1回、1年間服薬		
新薬	ジェネリック医薬品	自己負担の差額
23,000円	13,140円	9,860円節減
■糖尿病の場合：代表的な薬を1日3回、1年間服薬		
新薬	ジェネリック医薬品	自己負担の差額
23,000円	13,140円	9,860円節減

※表の金額は、薬代のみを計算した場合です。実際に患者さんが窓口で支払う金額は、この薬代以外に調剤技術料や薬学管理料などがかかります。

ジェネリック医薬品の検索や、新薬との価格を比較することができます。

ジェネリック医薬品の詳細はこちら！



かんじゃさんの薬箱 <http://www.generic.gr.jp/>